

# 小児用肺炎球菌ワクチン Q & A

## Q1. 肺炎球菌とはなんですか？

肺炎球菌は、まわりを莢膜（きょうまく）というかたい殻におおわれた菌で、人間の免疫が攻撃しにくい構造をしています。肺炎球菌はありふれた菌で、子どもの多くが鼻の奥や気道に保菌しています。保菌しているだけならば問題はありませんが、小さな子どもは肺炎球菌に対する抵抗力をもたないため、比較的簡単に肺炎球菌に感染することがあります。

## Q2. 肺炎球菌と髄膜炎の関係は？

大人では肺炎球菌が原因で肺炎になることが多いのですが、子ども（特に2歳以下）では、まだ肺炎球菌に対する抵抗力がないため、脳を包む膜にこの菌がつき細菌性髄膜炎などの症状の重い病気を引き起こすことがあります。他にも、菌血症、中耳炎等の病気を引き起こします。

日本では、毎年約200人の子どもが肺炎球菌による細菌性髄膜炎にかかり、そのうちの約30%が命を奪われたり、重い障害を残したりしています。

## Q3. 効果と安全性は？

肺炎球菌は、約90種類の血清型があります。このワクチンは、小児の重篤な肺炎球菌感染症の原因菌として頻度の高い15種類の血清型に対して有効です。

現在、世界の100カ国以上で接種されています。アメリカでは、2000年から定期接種が始まり、肺炎球菌由来の細菌性髄膜炎や菌血症を激減したことが報告されています。

## Q4. 接種スケジュールは？

接種開始の年齢	初回	追加	接種回数
生後2か月～6か月に開始	27日（4週）以上の間隔で 3回接種【1歳未満に接種】	3回目から60日以上の間隔で接種 【1歳～1歳2か月の時期に接種】	4回
生後7か月～11か月に開始	27日（4週）以上の間隔で 2回接種【13か月齢未満に接種】	2回目から60日以上の間隔で接種 【1歳～1歳2か月の時期に接種】	3回
1歳に開始	1回目から60日以上の間隔で 2回目を接種		2回
2歳～4歳に開始	1回のみ【5歳未満に接種】		1回

## Q5. 副反応について

国内臨床実験での副反応について主なものは、注射部位の反応として発赤（赤み）84%、腫脹（腫れ）69.7%、疼痛・圧痛28.2%等でした。全身反応として、発熱71.3%、易刺激性45.24%、傾眠状態52.1%等があります。

なお、重い副反応として、アナフィラキシー様症状（じんましん、呼吸困難、血管浮腫、顔面浮腫等）、けいれん（熱性けいれん含む）、血小板減少性紫斑病が非常に稀にあります。